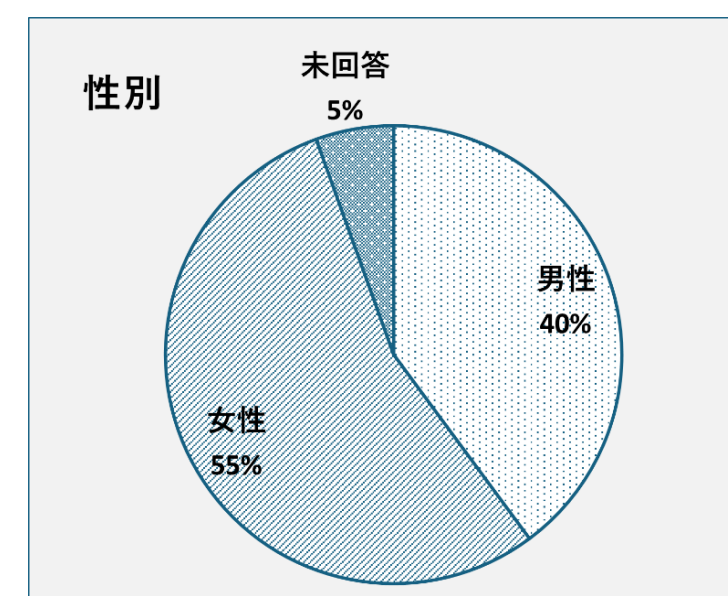
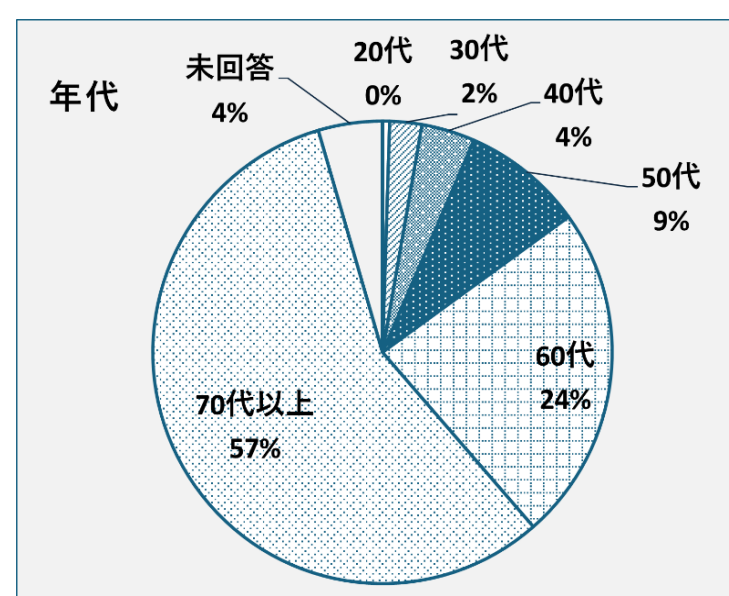
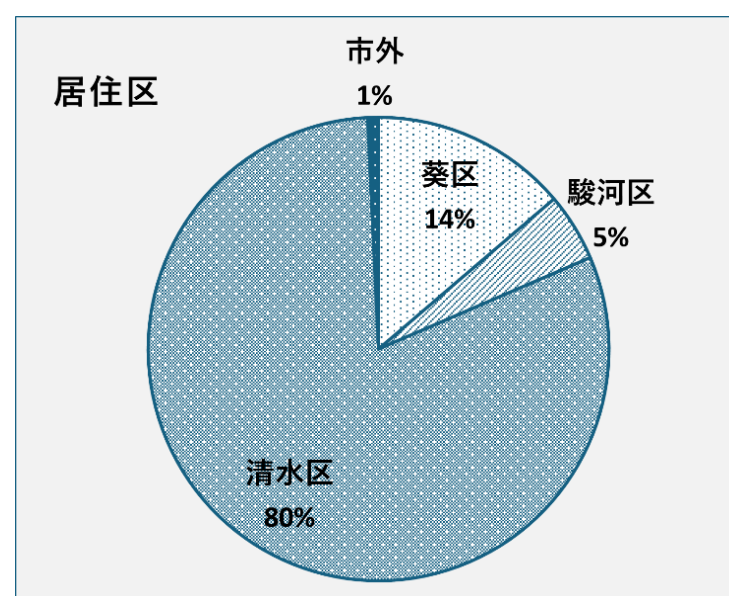


## 「静岡市の生涯学習のサービス内容及び提供場所に係る最適化の方向性（案）」に対する市民意見募集の結果概要

- 1 募集期間 令和8年3月25日（水）から4月24日（金）まで
- 2 実施目的 静岡市が提供する生涯学習サービスにおいて、市民一人ひとりが公平にサービスを楽しむことができるとともに、身近に学びや活動の機会があり、誰もが施設を利用しやすい形にすることを目的として策定した「静岡市の生涯学習のサービス内容及び提供場所に係る最適化の方向性（案）」について、市民意見を募集したものの。
- 3 募集方法 市ホームページ（Logoフォーム）からの電子申請、郵送、ファクシミリ、持参
- 4 募集結果
  - (1) 意見提出者・意見数 399人・564件
  - (2) 意見提出者の内訳
    - ①居住区 葵区55人、駿河区19人、清水区322人、市外2人
    - ②性別 男性159人、女性218人、回答しない22人
    - ③年代 20代2人、30代9人、40代15人、50代34人、60代94人、70歳以上227人、未回答18人



### (3) 主な意見の概要

清水区在住の60代・70代以上が中心で（計272人：全体の約68%）、見直しによる影響を受ける既存施設利用者の意見が多く寄せられた。

#### 【方向性案全般について（70件）】

- ・生涯学習施設について、利用者層が高齢者に偏っているとの指摘があり、全世代が利用しやすいサービスや制度へ見直していくことが求められている。
- ・現状維持を望む声が寄せられた一方で、限られた利用者だけが利益を得ているのであれば、制度の見直しを検討すべきとの意見も示された。
- ・生涯学習サービスの改善には賛成だが、生涯学習施設を再編するという方向性案には納得できないとの意見が寄せられた。

#### 【講座内容と提供方法について（40件）】

- ・趣味・教養講座は需要が高く、利用者の生きがいや健康づくりにつながっているとの指摘があった。

#### 【市民活動センターと生涯学習施設の集約について（59件）】

- ・機能連携の強化という方向性は理解を示された一方で、拠点の集約には疑問の声が寄せられた。

#### 【貸室の運用統一について（142件）】

- ・利用者制限の撤廃、貸出時間割を4区分とすること、Wi-Fiの整備やオンライン化など、利便性の向上には期待が持たれている。
- ・料金設定については、利用者からの反対が目立った一方で、公平な負担を求める声や、一定の負担をしても施設の持続的な利用を求める意見が寄せられた。

#### 【生涯学習系施設の配置について（200件）】

- ・中学校区ごとに1つの施設を選定し、生涯学習サービスを提供する方向性には反対の意見がみられた。

#### 【パブリックコメントの周知及び市民意見の聴取方法について、その他（53件）】

- ・今回、検討段階から示した「方向性案」について、事前に説明会を開催するなど、丁寧な説明を求める意見が寄せられた。

パブリックコメント時に示した方向性（案）			主な意見の概要	パブリックコメント等を経ての静岡市の考え方
テーマ	概要	方向性（案）の具体		
市民の豊かな生活の実現 (講座内容の再編)	「ライフステージ」等に応じた講座の提供（講座内容見直し）	・①生活力を高める学び、②地域活動力を高める学び、③職業能力を高める学びの3つを柱とし、ライフステージに応じて必要な力を習得し、生活に役立てることができる講座プログラムを提供する。	<b>【趣味・教養講座の継続】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味・教養講座は需要が高く、利用者の生きがいや健康づくりにつながっている。</li> <li>・高齢者の介護予防、フレイル予防、孤立防止に役立っている。</li> <li>・「趣味・教養は原則実施しない」という方向性に強い懸念がある。</li> <li>・学びを地域活動や社会貢献に結び付けることだけを重視すべきではない。</li> </ul>	<b>全世代向けに講座を提供します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者や子育て世代など、全世代が受講しやすい講座を提供します。また、趣味・教養に関する講座は全面廃止するのではなく、その性質・内容等を考慮し、「生きがいづくり」や「健康維持」、「コミュニティ形成」などへの寄与が見込まれるものは実施することとします。</li> <li>・利用者ニーズを的確に把握するため、講座申込システムを構築し、受講者の属性や申込状況を分析し、必要な講座の検討につなげます。</li> </ul>
	民間事業者等との講座提供の分担・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者等によって提供可能な、趣味・教養等の講座は原則実施しない。</li> <li>・だれもが満足して利用しやすい貸室を整備することで、例えば講師が生涯学習施設を借りて実施する講座開催など、これまで以上に学びの機会を創出する。</li> </ul>	<b>【民間事業者との役割分担】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者や大学、NPO等との連携により、専門性を生かした多様な学習機会の提供を期待する。</li> <li>・採算性を重視することで講座内容が偏ることや、受講料負担の増加が懸念される。</li> <li>・「趣味・教養は民間、公益性の高い講座は行政」という役割分担については、公共性の判断基準が不明確であり、講座内容だけで区分すべきではない。</li> </ul>	<b>より多くの学びの機会を提供します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの生涯学習センターや交流館が概ね対象とするエリアにおいて、他の公共施設（老人福祉センター・勤労者福祉センター等）や民間事業者と講座の内容や対象を分担します。同じテーマであっても、初級編と上級編など、内容をすみ分けて講座を行います。</li> <li>・参加率が低い講座は内容の見直しまたは廃止とします。ただし、講師の貸室利用を可能とし、多様な主体による講座実施を通じて、これまで以上に学びの機会の確保を図ります。</li> </ul>
	中学校区ごとでの講座内容の整理	一市二制度であった生涯学習における対象生活圏の考え方を改め、サービスの提供単位を「中学校区」に見直す。	<b>【多様な学び】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区1施設では高齢者の移動負担が大きい。</li> <li>・デジタルリテラシーや職業能力向上の講座は必要。</li> <li>・地域ごとの特性や利用者のニーズに応じた講座展開を求める。</li> <li>・オンライン講座やオンデマンド配信も検討すべき。</li> </ul>	<b>講座数・提供方法を見直します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の実施数については、各施設の対象人口の規模や貸室の稼働率、利用者ニーズを確認し、適正な講座数を設けます。</li> <li>・オンラインやオンデマンド配信等、施設を訪れなくても受講できるよう設備等の整備を行います。</li> </ul>

パブリックコメント時に示した方向性（案）			主な意見の概要	パブリックコメント等を経ての静岡市の考え方
テーマ	概要	方向性（案）の具体		
地域力の向上 （施設の集約）	市民活動センターと生涯学習施設の施設・機能の集約	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動と生涯学習で学んだ人材への支援連携を強化するため、市民活動センターと生涯学習施設を集約する。</li> <li>市民活動センター利用者の間口の拡大と利便性強化のため、現2箇所の市民活動センターを3区それぞれに整備する。</li> <li>集約化後の市民活動センターでは、生涯学習と市民活動との連携強化に向けた支援の充実及び多様な主体との協働基盤の提供を進める。</li> </ul>	<p>【市民活動センターと生涯学習施設の集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動センターの活動拠点機能や専門的な支援機能の維持を求める。</li> <li>生涯学習施設との集約により、専門性や独立性が損なわれる。</li> <li>貸事務所や貸ブース、会議室など活動環境の継続利用を求める。</li> <li>利用者や地域住民との丁寧な対話や合意形成が必要。</li> </ul>	<p><b>市民活動に対する相談・支援機能を強化します</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習との連携の深化や、多様な主体との協働基盤の整備等を通じて、市民活動センターの設置目的である市民活動の中間支援機能を充実させます。</li> <li>具体的には「地域デザインカレッジ」等の地域貢献に関する生涯学習講座の修了生を対象に、修了生の関心や事業の構想段階に応じて、事業内容の具体化や先行する団体との関係性構築等、実際に地域で活動するまでの伴走支援を実施します。</li> <li>NPOや企業、大学等が参加するネットワーキングイベントや地域課題別意見交換会等を開催し、市民活動センターを中心とした多様な主体との協働による課題解決の促進を図ります。</li> </ul>
だれもが満足して利用しやすい施設 （多様な活動の場の創出）	貸室の運用の統一		<b>だれもが利用しやすい運用への見直しを行います</b>	
	貸出時間割の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の多様な活動の場の創出や、地域クラブ活動の受入体制整備のため、貸出の時間割は4区分(午前、午後①、午後②、夜間)を基本とする。</li> </ul>	<p>【貸出時間について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夜間や休日の利用機会を拡大し、働く世代も利用しやすい柔軟な時間設定を求める。</li> <li>現在の3コマ制を見直し、利用枠の拡大を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸出時間割の原則を4区分（午前、午後①、午後②、夜間）とし、地域クラブ活動を含む多様な利用の可能性を高めます。</li> </ul>
	利用者の登録制度の統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度登録すれば、改めて手続きを行うことなく、生涯学習施設や文化施設など複数分野の施設の利用を可能とする。</li> </ul>	<p>【利用者登録・利用区分について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者区分や申請時期、利用条件が分かりにくく、制度を簡素化すべき。</li> <li>地域特性や福祉団体等への配慮から、一律の制度統一には慎重に考えるべき。また、優先予約など継続利用についても配慮が必要。</li> <li>団体登録の重複防止や利用実態に応じた適正な運用が必要。</li> <li>個人利用やオンラインによる登録・予約など、利便性向上を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の利便性向上の観点から、利用者登録制度の共通化について検討を進めます。</li> <li>施設ごとに設置目的や利用条件が異なるため、整合をとりながら、利用者登録手続きの簡素化を図ります。また、本人確認についても、WEBで完結できる仕組み作りに取り組みます。</li> </ul>
	会議室等の名称の統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設において同様の目的で利用されている諸室の名称は統一する。</li> </ul>	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センター、生涯学習交流館を中心に、同様の目的で利用されている諸室の名称を統一します。</li> </ul>
使用料の算定方法の統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設の貸室が一律の位置づけとなることに伴い、使用料の算定方法を統一する。</li> </ul>	<p>【利用料・予約制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用料の引上げや有料化に反対し、現行制度の維持を望んでいる。特に高齢者や年金生活者への負担増の懸念がある。</li> <li>通年利用や年間予約の継続を求める。3か月ごとの抽選方式には強い懸念がある。</li> <li>一市二制度の解消や利用料・利用ルールの統一を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用料については、施設の規模や機能を踏まえた算定へ見直し、考え方を統一した上で整理していきます。</li> <li>減額や免除規定については、施設設置目的に資する活動や市の政策との整合を踏まえながら、利用機会の確保及び公平性に配慮して適切に設定します。</li> </ul>	

パブリックコメント時に示した方向性（案）			主な意見の概要	パブリックコメント等を経ての 静岡市の考え方
テーマ	概要	方向性（案）の具体		
だれもが満足して 利用しやすい施設  (多様な活動の場 の創出)	利用者制限の撤廃	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の利用者制限を撤廃して、誰にでも開かれた利用しやすい施設とする。</li> <li>施設の目的に沿った営利活動を認め、生涯学習講座の修了生が講師となった講座の開催など、市民の主体的な地域活動の促進につなげる。</li> </ul>	<p>【利用者制限の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者制限の撤廃により利便性向上が期待できる。</li> <li>高齢者・障害者・福祉団体等の利用機会確保への配慮が必要。</li> <li>営利用や不適切利用への対策、利用基準の明確化が必要。</li> <li>利用条件や団体区分の整理・簡素化が必要。</li> </ul>	<p><b>利用対象の拡大及び見直しをします</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>属性や特定の団体による利用制限がある施設は、その制限を撤廃し、誰もが利用可能な施設にしていきます。</li> </ul> <p>【制限の撤廃に取り組む主な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勤労者福祉センター プール、フィットネスにおいて、現行の19歳以上という年齢制限を撤廃し、だれでも利用できる施設に転換します。</li> <li>老人福祉センター及び老人憩の家 現行の60歳以上という年齢制限を撤廃し、多世代での交流ができる施設に転換します。</li> </ul>
	予約状況を横断的に確認できる 貸室予約システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸室の空き状況を一度に確認・予約できるシステムを導入する。</li> </ul>	<p>【予約システムの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン予約やWebでの利用者登録など、利便性向上に期待できる。</li> <li>システム統合にあたっては、利用区分や料金体系も分かりやすく整理すべき。</li> <li>高齢者やデジタル機器に不慣れな利用者への配慮が必要。</li> <li>システム変更時には十分な周知期間が必要。</li> </ul>	<p><b>貸室の空き状況を確認・予約できるシステムを構築します</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貸室の空き状況の確認・予約を一括して行えるシステムの稼働に向け、貸室の運用統一に係る調整を進めます。</li> </ul>
	施設の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>Wi-Fi整備、低稼働施設の用途転用など、様々なニーズに応じた取組により、だれもが利用しやすい施設を目指す。</li> </ul>	<p>【利便性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Wi-Fi整備を強く望む</li> <li>全世代が気軽に立ち寄れるオープンスペースの充実を望む。</li> </ul>	<p><b>だれでも気軽に利用しやすい施設へ見直しをします</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習施設等へのWi-Fi設置を推進していきます。</li> <li>生涯学習施設等において、予約や料金の設定をしない自由に利用できるスペースを拡充します。</li> <li>低稼働の貸室においては、利用者の声を確認しながら、こどもの居場所づくりや地域クラブ活動の受け入れなど、地域課題の解決につながる活用を検討します。</li> </ul>
利用機会の 公平性の確保  (サービスの モレ減少・ダブリ解消)	<p>中学校区ごとでのサービス提供 (原則1中学校区に1施設)</p>	<p>○モレ減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区に生涯学習系施設がない場合は、小・中学校を活用する。</li> </ul> <p>○ダブリ解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区ごとに生涯学習のサービスを提供する施設を選定する（原則1施設）。</li> <li>選定した施設が老朽化した場合は、小・中学校の空きスペースなどへの機能集約を検討する。</li> </ul>	<p>【施設再編、統廃合への懸念】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清水区の交流館は歴史的に地域ごとに整備されており、一律な集約は実情に合わない。</li> <li>交流館は生涯学習の場だけでなく、自治会活動、地域コミュニティ、防災の拠点として重要であり、統廃合には反対。</li> <li>中学校区単位への集約により施設が遠くなり、高齢者の利用や地域活動が困難になる。</li> <li>清水区独自の歴史や利用実態を踏まえ、一律の見直しではなく地域特性に配慮した検討を求める。</li> <li>効率化や公平性の観点から見直しには理解を示す。</li> </ul>	<p><b>学校施設を活用したサービス提供と、既存施設のあり方の検討を行います</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各施設が担う機能やサービス内容の見直し、利用促進に取り組めます。</li> <li>(モレ減少について) 生涯学習機能のモレがある地域については、需要を踏まえた上で地域内の小・中学校等を活用したサービスの提供を検討します。</li> <li>(ダブリ解消について) 類似機能を持つ施設については、機能やサービスの再編について検討を行います。</li> <li>生涯学習系施設について、当面の間、現在の施設配置を維持しながら、将来的な施設配置や施設のあり方について検討を進めます。</li> </ul>